

令和7年広島県議会9月定例会提案見込事項

1 その他の提出案件

(1) 広島県公立大学法人業務の実績に関する評価結果について

ア 概要

広島県公立大学法人の業務実績について、県の附属機関である広島県公立大学法人評価委員会による評価結果を報告する。

なお、令和6年度は、第三期中期目標期間（R元～6年度）の最終年度に当たるため、地方独立行政法人法の規定に基づき、年度評価に加え、中期目標期間を通しての業務実績の評価（最終評価）を行った。

イ 評価結果

(7) 年度評価

令和6事業年度については、5つの大項目のうち、2項目が「順調」、3項目が「おおむね順調」の評価であり、全体評価としては「年度計画の実施が順調である」と評価できる。

- ・「順調」：I 教育の質の向上、IV 地域貢献・大学連携の推進・学生の支援
- ・「おおむね順調」：II 研究の質の向上、III 新たな教育モデルの構築、V 法人経営

(1) 最終評価

第三期中期目標期間については、5つの大項目全てが「おおむね順調」の評価であり、全体評価としては「第三期中期計画における取組が、おおむね順調に実施された」と評価できる。

- ・「おおむね順調」：I 教育の質の向上、II 研究の質の向上、III 新たな教育モデルの構築、IV 地域貢献・大学連携の推進・学生の支援、V 法人経営

※ 大項目評価は、次の5段階で評価
S(特筆すべき進捗状況)・A(順調)・B(おおむね順調)・C(やや遅れている)・D(重大な改善事項がある)

【主な内容】

I 教育の質の向上 ～県立広島大学		▶年度評価 A (順調)	▶最終評価 B (おおむね順調)
教 学 マ ネ ジ メ ン ト の 再 編 の 確 立 等	【取組と成果・課題】 ○ 令和2年度に実施した学部・学科等再編を通じて、副専攻プログラムや全学共通教育科目の充実など、幅広い知識・スキルの修得を可能とするカリキュラムを構築し、また、専門教育について、少人数授業やフィールドワークの実施、国家資格や教員免許の取得支援等に取り組み、国家試験の合格率は、おおむね全国平均を上回るなどの成果が上がっている。 ○ 教育内容の充実に取り組むとともに、学修成果の可視化に向けて、学内の教育情報を収集・分析するIR推進室等を立ち上げ、ルーブリックの導入、外部評価テストの実施など、教学マネジメントの基盤整備に取り組んでいる。 ○ コロナ渦において、オンライン授業の割合が高まる中、学修意欲の向上に向け、対面・オンラインの受講方法を選択できるハイブリッド型授業を導入するなど、学生一人ひとりの状況に応じた学修機会の確保を図り、学生アンケートでは、授業の総合満足度は中期目標期間を通じて高い水準を維持している。		
	【今後の取組】 「課題探求型地域創生人材」の育成に向けて、引き続き、教育内容の充実や教学マネジメント体制の確立、学生の主体的な学修の促進に取り組まれない。		

	<p>大学院教育の充実</p>	<p>《HBMS》</p> <p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 正規課程に加え、文部科学省「職業実践力育成プログラム」の認定プログラムなど、実践的かつ専門的な教育プログラムの充実が図られ、令和6年度には、中堅・中小規模組織に特化した教育プログラムの開発等を行うSMOフロンティア研究所を設立している。 ○ こうした取組を通じて、正規課程の志願者数及び社会人教育プログラムの受講者数ともに安定的に目標を上回るなど、取組が順調であると評価できる。 <p>【今後の取組】</p> <p>地域や企業・団体等のニーズを踏まえてカリキュラムの更なる改善を図り、次世代型リーダーを継続的に育成するとともに、独自性を高めながら、更なる発展に取り組まれない。</p> <p>《総合学術研究科》</p> <p>【取組と成果・課題】</p> <p>保健福祉学専攻の博士課程後期を開設するとともに、専攻横断プログラムの導入を決定するなど、大学院教育の高度化・再編を進めているものの、総合学術研究科の定員充足率は、数値目標を下回っている。</p> <p>【今後の取組】</p> <p>定員充足率は、専攻によりバラつきが見られることから、各専攻の課題やその要因を分析して改善を図り、着実に定員を充足できるように取り組まれない。</p>
<p>II 研究の質の向上 ～県立広島大学</p>		<p>▶年度評価 B (おおむね順調) ▶最終評価 B (おおむね順調)</p>
	<p>外部研究資金の獲得支援</p>	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外部資金の獲得に向け、文部科学省の科学研究費補助金に係る申請書作成支援など、教員への支援策の充実を図り、また、獲得資金の一部を基本研究費として付与する制度や、表彰制度などのインセンティブ制度を導入している。 ○ こうした取組を通じて、科学研究費補助金の年間の平均獲得件数は目標を上回るなど、外部資金獲得に向けた取組はおおむね順調と評価できる。 <p>【今後の取組】</p> <p>より一層、安定的に外部資金を獲得できるよう、組織的な支援の充実や、教員のインセンティブ向上などの取組を進められたい。</p>
<p>III 新たな教育モデルの構築 ～叡啓大学</p>		<p>▶年度評価 B (おおむね順調) ▶最終評価 B (おおむね順調)</p>
	<p>教育プログラムの整備等</p>	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リベラルアーツや語学など、複雑・多様化する課題の解決に必要な知識・スキルを学び、課題解決演習(PBL)や体験・実践プログラムを通じて、トライ・アンド・エラーを繰り返しながら、実体験として修得する教育体系を構築している。 ○ 「叡啓大学実践教育プラットフォーム協議会」の拡充を図りながら、PBLやインターンシップ、学びの集大成として卒業プロジェクトを実施するなど、着実に実践教育の充実が図られている。 <p>【今後の取組】</p> <p>「叡啓大学実践教育プラットフォーム協議会」の参画機関との連携を強化し、叡啓大学が掲げる実践教育の更なる充実を図られたい。</p>
	<p>留学生の確保</p>	<p>【取組と成果・課題】</p> <p>開学当初は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、留学生選抜において定員未充足となったものの、国内外の留学フェアへの参加や欧米圏に強みを持つ留学サイトによる情報発信の強化などを通じて、令和6・7年度留学生選抜では、定員を上回る留学生を確保しており、成果が現れていると評価できる。</p> <p>【今後の取組】</p> <p>より幅広い国・地域から留学生を受け入れるとともに、海外協定校との交流の活発化や留学生への支援の拡充を図り、多様な価値観の集うキャンパスの実現に向けて取り組まれない。</p>
	<p>志願者の確保</p>	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高校での模擬授業の実施、新聞・ビジネス誌、WEB記事などを通じたPRのほか、叡啓大学の教育内容と親和性の高い高校を重点的に訪問するなど、県内外の高校との関係強化に注力している。 ○ さらに、総合型選抜の出願期間の見直し、英語力の証明書類の提出期限の延長など、入学者選抜の実施方法の改善に取り組んでいるものの、志願倍率は目標達成に至っていない。 <p>【今後の取組】</p> <p>戦略的な広報・ブランディング活動により、県内外の学生・保護者や高校教員に叡啓大学の教育内容が浸透し、継続的・安定的にアドミッション・ポリシーを満たす学生を確保できるよう、これまでの取組のより一層の充実・強化を図られたい。</p>

キャリア支援	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 専属のアドバイザーが常駐するキャリアデザインオフィスを設置し、個々の学生に寄り添ったキャリア支援を行うとともに、コーチング等を通じて学生のキャリア意識の醸成にも積極的に取り組んでいる。 ○ さらに、社会の様々な分野で活躍する人材による相談体制の整備、起業を目指す学生への支援として、セミナーの開催や学生プロジェクト支援制度を構築するなど、手厚い支援を行っている。 ○ 第1期生が卒業し、県内外の様々な企業へ就職するとともに、起業や大学院への進学など、4年間の学びを通じて芽生えた一人ひとりの興味・関心のある進路を実現しており、キャリア支援の体制・仕組みを順調に構築できているものと評価できる。 <p>【今後の取組】</p> <p>引き続き、学生が希望する進路を実現できるよう、学生ニーズを踏まえた支援の充実に取り組まれない。</p>
IV 地域貢献・大学連携の推進・学生の支援 ～共通 ▶年度評価 A (順調) ▶最終評価 B (おおむね順調)	
リカレント教育	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県立広島大学では、幅広い学習ニーズに対応した公開講座の開講や、受講しやすい環境づくりに取り組んでおり、受講者アンケートにおける満足度や学修成果の活用見込みは、中期目標期間を通しておおむね目標を上回っており、県民ニーズを満たす質の高い講座が実施されている。 ○ 叡啓大学においても、企業・団体の人材育成・経営革新のためのセミナーのほか、県内高校を対象とした探究的な学習に係る研修会の開催など、「新たな教育モデル」の普及、浸透にも取り組んでいる。 <p>【今後の取組】</p> <p>引き続き、こうした取組を継続・発展させ、リカレント教育の推進に取り組まれない。</p>
V 法人経営 ～共通 ▶年度評価 B (おおむね順調) ▶最終評価 B (おおむね順調)	
法人運営の効率化等	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1法人2大学体制による効率的な法人運営に向け、施設・設備の共用や経理・財務等の管理部門の集約、システム導入による業務効率化・電子化に加え、教員の教育力向上や職員の育成に取り組んでいる。 ○ また、法人内部の監査体制を強化し、教職員を対象にしたコンプライアンス研修、支出事務に係る職員研修を開催するなど、適切な事務執行や法令順守意識を高める取組の強化を図っている。 <p>【今後の取組】</p> <p>コンプライアンスの確保に向けた取組を継続するとともに、業務運営の改善・効率化、財務内容の改善など、より一層の法人経営・運営基盤の強化を進められたい。</p>

(2) 県が資本金の四分の一以上を出資等している法人の経営状況説明書について

- ・ 広島県公立大学法人